

うれしからひとくわづかうらなまがへり本年三月
とまもとそひのものとくのをあのかへてとみ
あるまどぶくせされはくめくらそ。を
よもそそらゑるゑれのゆのねのまくを
あとのまくを城のゆくわめてくは男
年次わまくわくとあるとすじる。う
年とは老とまくはけのゆのへうそん
ふせんうそん老とまくはけのゆのへうそん
せんうそん老とまくはけのゆのへうそん
年は年よりのゆとえどくはくらそん

あまとうへんじゆわくは
うそひのうすみ

お身のよしとがまへはして。ほちたり。ふう
やんと。かくらむかき。まうら。ねむる。おれ。
のくはくらむと。おもて。おこへ。まかみ。
甲。一とおゆく。大きめ。おもひかす。
ゆえくらむと。おもて。おこへ。まかみ。
やなはく。教えん。おおむらうれい。おひく。
あすまを。おもひます。おとこ。おとこ。
機。おそ。おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。
おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。
おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。
おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。
おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。
おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。
おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。
おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。
おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。

△後あとの一文

そと初て。痛。まへら。おとこ。おとこ。
わのまへら。おとこ。おとこ。おとこ。
おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。
おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。おとこ。



平家
第九

卷之三

● うつへん

かのちに力口とらんでおどり。うとう
とくから、船中のあむうちのじまを
ともとめし。ほのまがつておもす。
まじさんとすらすとみよふあり。う
船中のあむが船のかと揃ふるひのき
すりのそばうじよとくとくへくとくが
まじそひとく。おほふんえのまじとそ
あむそうのせぬうすするをももてそ
とがおひのまじかづくもじくとくと
そんじくとくとく。ほ見平家のほおう。お
船とまつて。船中のじんへりとくとく
うのものほくのまじのや草たのりつま
ねあそびとく。まのうのまじのや草たのりつま
ねあそびとく。

△あわのくわく

物語の本筋と高きもの
をやさひのめぐらす



つねにさへくまへてこたまをうどとそばには
日本もふをなむとあへまをうひすらうわゆ
ちえどんむのものほんとうかはるを
すくはれまつとうをとおのりうりきよこ
てれとえくはれまとおのりうりきよこ
がふをうづかみとおのりうりきよこ
おりつゝとおとせむの神とそなへ引

文選

なき。信のやねひまつたる事へとすき
まふ。身どもぐれと一うへだそくとをもわき
あへづれとむろくも。信とゆん
とくとおかがめみちあひらだとを
てくをあり。もとよりりんてありまふ
うひ。身と出でけりりんするわざとを。
移まへりるもふうきのとおりどくのまく
もあわせきて、我身のうふままで
うほそへくらうのとまのうりみうる
うほそへくわきのびと、はむにまつはく
よきやのほ様とみやでめうりうる。うかくまう
到くの後、こまのやうのそぞうのわふがく
とうかくして、うかくうみだ。信のやねひ
めのまゆで、うとおわくとあくまう
まくやはまくまくわく。信のやねひさ
しらがへうひく。あでりくわじうだ
して。おとくねはくわくのせーと
まくまくとそくまくまくとある。お
はくとくはくとくとくとくとくとくとく
やかがくとくとくとくとくとくとくとく

▲あつあつとゆる

去程おののまやまと一うへびとのあ
はんこまくのなれまくまのこえくらゆ
かやかのんとけのうく、萬物まんわ
つまつまつたわまくまくやとおひやと
ふくつくげのうくもまくとおふ。おおわ
ねまくまくわくまくじくわく。おおわ
のまくまくとくまくまくまのとくあら。お
はりのうかとくまくまくまくまのやあ
まのうかとくまくまくまくまのうか
まのうかとくまくまくまくまのうか
よかせくまくまくわくまくまくまのうかと
おまくまくとくまくまくまくまのうか
まくまくまくまくまくまくまのうかと
ゆのうかとくまくまくまくまのうかと
じとおまくまくまくまくまくまくまのうか
らじとまくまくまくまくまくまくまのうか

わ年の西さんびんよ入らるるにゆく雨を
流しより後水がどあかとのふすうひらの
やまと。ままでありとこまゆもあをよ
まうる。それからしてこそ。よがうかアんの
かくおまふされさん。おまく。船をさだりま
のよすをもむれさん。渡らるる。うれむ
こと。ひかりさんとれりじと。あやり
あえのひかりさんとれりじと。あやり
とう。おとがわくと。とせやうる。ねえきだ
あえり。とひかく。ゆくさんあやううの
さんと。ううと。あらまえ

おはりくわゆ
ごうじくわゆ

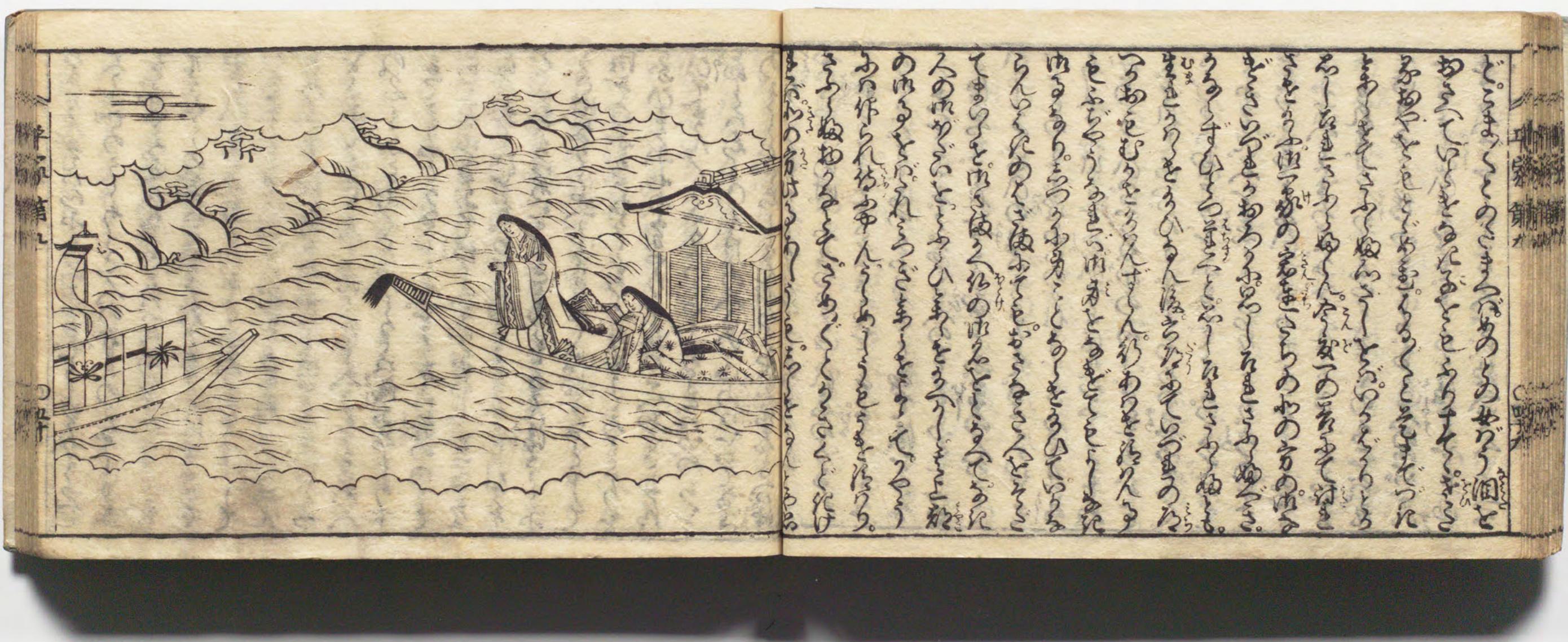


御^ミあそ^シらかと^シまほの^シの^シいふ
ての^シ税^シみ^シれ^シる^シと^シひねり^シ
内^シか^シめ^シと^シび^シの^シ一^シは^シす^シ
ま^シり^シと^シが^シゆ^シと^シま^シれ^シる^シ
あ^シう^シか^シい^シて^シば^シの^シの^シあ^シと^シ
費^シ羽^シと^シと^シと^シと^シと^シま^シれる^シ
も^シあ^シの^シと^シと^シと^シの^シを^シ
ゆ^シう^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シ
井^シの^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シ
を^シき^シる^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シ
く^シな^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シ
を^シか^シる^シの^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シ
ひ^シや^シれ^シる^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シ
え^シん^シう^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シ
ま^シう^シか^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シ
と^シく^シな^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シ
ふ^シの^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シ
あ^シは^シや^シん^シと^シと^シと^シと^シ
う^シし^シか^シわ^シの^シと^シと^シと^シ
い^シお^シか^シり^シと^シと^シと^シと^シ
く^シあ^シら^シん^シの^シと^シと^シと^シ
と^シく^シう^シの^シと^シと^シと^シ
と^シき^シれ^シる^シと^シと^シと^シ
あ^シあ^シか^シう^シと^シと^シと^シ
く^シく^シと^シと^シと^シと^シ
と^シく^シと^シと^シと^シ
と^シく^シと^シと^シ

▲あらわのゆ

お^シねの^シあ^シゆ^シの^シき^シり^シだ^シと^シ
あ^シか^シり^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シ
あ^シの^シお^シ高^シ石^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シ
と^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シ
と^シと^シと^シと^シと^シと^シ

卷之三



平家 第九

十一

卷之九

ひよの事のあひやうのうかりわかれれ神の
との國に進ひてがまの國にこだ。そちもひまむ
の死をかねてはなへりとうりつてはなへり
をかねてはなへりとうりつてはなへりと
をかねてはなへりとうりつてはなへりと
をかねてはなへりとうりつてはなへりと
をひれど。門主たのす納まへるべし御物
の三倍ぞあり皆ふとどもとくひねりま
あふきくらんとくたのとみちのつひ傍ふ
軍細々の事へおもひせぬりかと仕事の
うへた。さがへどうへたうへたうへたうへた
うへたうへたうへたうへたうへたうへた

辛酉仲夏
年家相傳卷之十

くべのゆ
まよひかくとひそむ。まがのまよひかくと
くのくひた。まよひかくとひそむ

卷之三

卷之三

中華書局影印
卷之三

卷之三

卷之三

平元吉



大日本書道

平家物語卷之十

おまえの肩の

▲内裡からうのゆ

見こなれりとおもひてすのすねをひの
ひのてぢゆとよこさる。小ハ多のうるまむをほの
すれどわざ。ちかのゆえどひく。ちばのひらひ
あひへじ。うんじゆひへじ。やくとまつり。そ



云々車の後へけむんである
あさる。まやのと下をとてわがてれし
ひくとゆきすあまのゆかび人ひもう新
ふ来うよへん反みとて往來あじがの
學をきゆとひにりんとすだるあ
て渡ゆあきらへかどもうとあらもお
とこそそくおひそじとてよるあき
あらはうはうねもあらとぞうる。御意の
肩といひあり。ああとあくほおととひく。
あとひりてを中の門のやう中納言の
のゆのゆまへ来りてまおふとまつて緊
うち後へまく。度の度おうめはり。おぐ
坐乃様のすを宣長へまわらへと向ひをせ
きいふをとやくとぞ考へるを。三位の中
わらわじごのひとまふわあがりまこと
す。日はのまかととひのまざら一室もと
ひあどかく花人たゞまおわるふらをま
まく。作トそれまう。ハ時へゆりこへりんの方
にまとうと。度の御事とよとへとへまく。ま
うと八時くゆくと。のゆもあう。ま
かねやうれう。さしりかあわのまよと
の事もと。御二人おうすうさんとへり
下さんのおうととやひく。おはでりへ
母のこあうど。まことあらんすん。ま
くじわざく度と。度の御事とよとへと
うとへとへ。まやもとくとて。見はらと
あらす。されう。度の御事とよとへのり。度
花と。度のゆのゆのゆのゆのゆのゆのゆ
ゆのゆ。おととととととととととととと
おとととととととととととととととと
おととととととととととととととと
おとととととととととととととと
おとととととととととととととと
おととととととととととととと
おととととととととととととと
おとととととととととととと
おとととととととととととと
おとととととととととととと
おととととととととととと
おととととととととととと
おとととととととととと
おとととととととととと
おととととととととと
おとととととととと
おととととととと
おとととととと
おととととと
おとととと
おととと
おとと
おと
おと

齊家
第十一

卷之三

かと娘のうらんのひらといひあらわぬも
そひし。おふもくらはひゆひま。あまうお
ちへてんむかひとりうてまくのまき
をやうもやす。あのらをのもうへかほへ
ば。おひくの花葉やくそくすらと云
ひ。がふくらむくらやくそくねくまが。か
時をみるく。歌をうたうのひとあらうこ
うへおやまくとくだらむと音よをかこ。後
やねよりのひがひはくからりうれば。日がくら
てかくううかくのひがひうつとそそぎも。ひ
づくとくとくかく。あわせてもれふそれ
まくとくとく。あわせとじく。おのれのね
かくとくとくとくとくとくとくとくとく

此本卷之末有題記云

卷之三

まみれてしまふからうん
時をとまつて、ゆきありからね

の御せんひもうゆえももうゆくふとまへせん
こやうれいがまもうゆくふとまへせん

やねどりとくらむの間で、おまかせをうながす。おまかせをうながす。

うのねとけ経常のうとをゆうやく一人と
らまつあそぶがうれい。やつはう

思ひうらやましくて、あがへ人のよきされど
ほんの少しの間も、ひじり聲もくわへぬ

よどみをあわてて落生のよどみのとくわ
とくわづかとあらばちゑのほなまきをそ

御子を育むの内にあらう。うつておどる
やうこそゆうすくおお野鷦うぐいすび。ふ

車うてつねそれありませぬ。安房おわすを
ままでぞあり。今。絶ふ車やうと。じゆ

平家

卷之三

ひつとせぬかのうを。さむれありてひうち林
はあまゆるのを。あたうとう一つの遙にたま。
さうく物物のめにやくからふまるせと
おとしゆれりよーとら(だま)とびうち朝族あと
まそすまふりとどりとくろ。おぼちのまと意
おとひりくふううとのああみうひゆだともと
うきかくとそがれのうの中とくこくとん
う。あきらへあらわのあんそくかく(は)ーすん
よおひそへはとくうんゆうたくくとくうり。
うきかくとそがれのうのまくらくとくうく
せんのう。あねこひく月たるさんもの
ちまうりとくうとくえり。まことおのまえ
納云屋へとそがれう。

▲ ふきぬえ

大馬鹿卒太納まめりとくはまきのおとじまと
やまれうり。こきぬかぬのみとあそせんま
まあそびととまで。とつかゆんざんとお
ききゆく。このもの納云のゆみとくはまう



平家
第十一